

	(特集)	
英	語	の
	語	彙

小・中・高・大の語彙指導の 連携を考える



西垣知佳子

新しい学習指導要領では外国語活動が必修化され、小・中・高の連携がこれまで以上に重視されています。しかし、学習指導要領には、連携に関する具体的な内容や方法は示されていません。そのような中、樋口他（2005）、小池他（2008）のプロジェクトチームは、英語教育の連携に関する研究を独自に行っています。

一方、語彙力はコミュニケーション能力の基盤であるとも言われます。学習指導要領の改訂のたびに、扱われる語彙数の増減が話題となるように、語彙は英語教育の大きな関心事のひとつです。本稿では、語彙指導に焦点をあて、小・中・高・大の連携について考察します。

■教科書の語彙の現状

語彙指導の連携の方向性をさだめ、展望を得るためには、はじめに現在使われている中・高の英語検定教科書で扱われている語彙の現状をとらえておくことは有効でしょう。

明治から平成という時代変遷の中で英語教科書を見ると、最も顕著な変化のひとつに「異語数の減少」があると言います（小篠・江利川，2004）。戦後、昭和26年（1951）発表から、平成10・11年（1998・1999）告示までの学習指導要領に示された新語数の合計の上限は、6,800語から2,700語まで、学習指導要領の改訂のたびに徐々に減少してきました（伊村，2003）。そして新しい学習指導要領では、ゆとり教育の反省から、語彙数は増加に転じています。

筆者の研究グループでは、1人の学習者が中・

高の教科書を通してどの程度の語彙力を習得することが可能なのか、「カバー率」という指標に基づいて調査を行いました。カバー率とは、中・高教科書語彙が、ある分野の英文テキストの何%の語彙をカバーするのかを表わすもので、教科書語彙の実用性を示す指標の1つと考えられます。

調査は、音声英語から1) TOEIC Listening Section, 2) TOEFL Listening Section, 3) 大学留学チュートリアル, 4) PBS (TV ニュース), 5) VOA (ラジオレポート), 6) サバイバル英語, 7) 映画の7分野, 文字英語から1) TOEIC Reading Section, 2) TOEFL Reading Section, 3) 海外大学入学案内, 4) *TIME* (英文雑誌), 5) *News for You* (ESL 英字新聞), 6) 生活案内〈住民向けホームページ〉, 7) 小説の7分野に対するカバー率を算出しました。

調査は、1人の学習者が現実に学ぶ教科書の可能性を考慮して、中・高教科書で採択率の高い教科書を1種類ずつ選んでデータベースを作り、そのカバー率を求めました。一般に、カバー率95%が英文理解の閾値とされます。したがって、実用になる英語力を目指すには95%のカバー率が達成目標ということになります。

調査の結果、教科書語彙がカバー率95%を超える分野は音声英語の中のサバイバル英語のみでした。このことは、多くの日本人が望む、海外旅行に出かけてサバイバルできるレベルの語彙力は、教科書の語彙を習得すれば身に付けられるということを示唆しています。

しかし、その他の分野では、音声英語と文字英語のいずれにおいてもカバー率は95%に到達しておらず、教科書語彙だけでは国際社会で通用する実用レベルの語彙力は身に付かないということもわかりました。

さらに興味深いことに、調査したカバー率の中で最も数値が低かった分野は、文字英語の中の「生活案内」でした。このことから、教科書の語彙は、生活語彙の分野が相対的に弱いこともわかりました。教科書における生活語彙の不足は、英語教育者からも繰り返し指摘されてきましたが(山家, 1966; 堀内, 1976; 松原, 1987; 鶴田, 1991; 毛利, 2004), そのことがデータにおいても裏付けされました。生活語彙は必要に応じて補充する必要があると言えるでしょう。

こうした結果から、中・高教科書を通してサバイバル英語レベルの、どのような分野にも必要とされる汎用性の高い基礎的語彙が学べること、しかしながら国際社会で通用するレベルを目指すには語彙の補充が必要なこと、したがって大学入学後は学習者の専門性や関心に合わせて語彙を拡大すると効果的であろうという語彙指導の全体像が見えてきました。加えて、学習指導要領の趣旨を踏まえると、身近な生活語彙は小学校で導入すると良いであろうということもわかりました。

続いて、小・中・高の教科書やテキストの語彙がお互いにどの程度重複しているか、重なり の程度を調査しました。調査は中・高検定教科書(計66冊)と教科書会社から出版されている小学校英語活動用のテキスト(計14冊)に出現する語彙を収集して行いました。その結果、小・中・高の教科書・テキストで扱われる語彙の重複の割合は高く、扱っている語数の割には新しく習う語の数は少ないことがわかりました(中條・西垣・吉森・西岡, 2007)。

語彙の定着には繰り返しが必要です。したがって同じ語に繰り返し触れることは大切です。それと同時に、知っている語の数を計画的に増やして

いくことも必要です。連携を考える上で、新しく学習する語彙の数を計画的に積み上げることへの配慮も忘れてはならないでしょう。

こうした調査結果から、教科書の語彙によって達成できること、できないことが明確になり、語彙指導の連携において勘案すべきことが見えてきました。

■目標語彙数

以下では筆者の研究グループが行った研究結果に言及しながら、語彙指導の連携について「どのような語彙」「どのくらいの数」指導するかという視点から考察します。

はじめに指導する語彙数の目安を設定しました。聞く・話す・読む・書く英語に対して、ターゲットとする英文の語彙のカバー率95%を達成するには7,000~8,000語が必要であると言われます(中條・竹蓋:1994)。そこで、目標とする学習語彙数を8,000語とし、表1にはどの教育段階で、どのくらいの語数を指導するかについて、具体的な数字を盛り込みました。

表1 目標語彙数とその累積

学校教育段階	目標語彙数	累積語彙数
小学校	500語	500語
中学校	1,000語	1,500語
高等学校	2,000語	3,500語
大学・教養	1,500語	5,000語
大学・専門	1,500語	6,500語
大学院・社会人	1,500語	8,000語

小学校英語の目標語彙数は500語としました。これは、小学校英語の目標語彙数を500語前後としている研究者が多いこと(竹蓋・水光, 2005; 樋口他, 2005; 小野, 2005; 山田, 2007), 中国, 韓国, 台湾という近隣諸国の小学校英語の指導語彙数と比べても妥当な数と考えられる, というような理由からです。

500語を5, 6年の2年間で学ぶのか, 3~6年の4年間で学ぶのか, 学習期間は問題ですが,

語数の上では、500語くらいを導入できると実用になる英語力への寄与が期待できると考えます。

中学・高校の目標語彙数については、1970年代以降に告示された『学習指導要領』によると、学習する語彙数が中学校ではおよそ1,000語程度、高校では、「中学＋高校」の学習語彙数の合計が3,000語程度で推移していることから、中学校では1,000語、高校では3,000語から1,000語を引いた2,000語を目安としました。

続いて、大学・教養課程、大学・専門課程、大学院・社会人において1,500語ずつの語彙を増強し、8,000語を達成するように考えました。

■語彙リスト

学習目標語彙数が定まったところで、次に「どのような語彙」を指導するのか、具体的に指導する語彙の選定を行い、語彙リストを作成しました。筆者らが行った各学校教育段階での語彙選定の方法の概要は次の通りです。

小学校：小学校では身近な生活語彙を指導することに主眼を置きました。生活語彙は英語絵辞書に多く含まれることから、英語絵辞書30冊から作った絵辞書コーパス、さらに子どもの話し言葉コーパス、母語話者の語彙習得学年に関する資料などを統合し、統計的手法に基づいて小学生のための生活語彙500語を選定しました。

中学校：汎用性の高い基礎語彙を指導するため、中学校検定教科書18冊（6シリーズ×3学年）から語彙リストを作成し、4シリーズ以上の教科書に出現した語、552語をコアとして選定しました。これは、より多くの種類の言語資料に出現する語はより重要であるという「レンジ」の考え方にに基づく選定基準です。

高校：引き続き汎用性の高い基礎語彙を指導するため、高校検定教科書48冊（16シリーズ×3種（英語Ⅰ＋英語Ⅱ＋リーディング））から語彙リストを作成し、12シリーズ以上の教科書に出現した1,089語をコアとして選定しました。

大学教養・大学専門：公開されている TOEFL、

TOEIC テスト問題と練習問題からコーパスを作成して、TOEFL 用学習語彙600語、TOEIC 用学習語彙640語をコアとして選定しました。

大学院・社会人：British National Corpus から学術語彙120語、ビジネス語彙100語をコアとして選定しました。

選定した語彙は、小学校を除いては、表1の目標語彙数の約半数で、大学院・社会人レベルではその一部にあたるものです。目標数に不足する分は、今後、小・中・高の語彙の重複を調整するなどの見直しを行いながら、追加する予定です。また、不足分の一部は教師が学習者の特性、興味などを考えて語彙を追加し、独自の語彙メニューを作成するのもよいと考えます。

以上の語彙リストは公開されていて、またホームページ上でも公開されています (<http://www.e.chiba-u.jp/~gaki/>, <http://www5d.biglobe.ne.jp/~chujo/>)。

■語彙指導教材の開発

筆者の研究グループでは、選定した語彙を学習するための教材も併せて開発しています。中学と大学レベルでは、語→句→文と段階を追ってスパイラルに語彙を学ぶ e-Learning 教材を開発しました。小学生用には生活語彙を指導するための絵札と読札がそろったカルタ教材を作成しました。これらの教材は実際に授業で使われています。また PSP、iPod Touch、iPhone を使った、遊びながら生活語彙を学べる携帯ゲーム機教材も試作しています。高校生用には、英語に併せて日本語訳が表示される日英パラレルコーパスを活用したデータ駆動型の語彙学習教材を開発中です。

■語彙リスト

最後に、上で選定した語彙リストの一部を紹介します。

〈小学校：生活語彙500の例〉

body	food & drinks
arm	apple
beard	banana
bone	beans
cheek	bread
chin	breakfast
ear	butter
elbow	cake
eye ...	candy ...
verbs	adjectives
bake	big
bite	busy
blow	clean
break	cold
catch	dirty
climb	dry
close	giant
cook ...	good ...

〈中学校：コアとなる語の例〉

weather & space	language & world
cloud	communication
earth	culture
moon	gesture
rain	language
sky	message
snow	peace
space	society
star ...	speech ...

〈高校：コアとなる語の例〉

abstract noun	verb
advantage	affect
behavior	avoid
courage	confuse
creature	continue
experience	develop

expression	influence
issue	protest
religion ...	provide ...

小・中・高の教科書とテキストの重複を調査した研究では、3種の全てに重複して現われた語が287語ありました。その一部を掲載します。

〈小・中・高に重複して現れた語の例〉

a	any	ball
about	arm	baseball
after	around	be
afternoon	art	bear
again	at	because
all	away	bed
and	baby	big
animal	back	bird ...

筆者らは指導する語彙を総体としてとらえ、明確な基準に照らして現代社会に必要な語彙を選定し、使える語彙力を獲得するための教室用とICT用教材を作成し実践しています。こうした試行錯誤の積み重ねが、理論と実践を融合させた実効性のある一貫型語彙指導を実現させると考えます。

■主な引用文献

- 中條清美, 西垣知佳子, 吉森智大, 西岡菜穂子 (2007) 「小・中・高一貫型英語語彙シラバス開発のための基礎研究」『Language Education & Technology』44, 23-42.
- 中條清美, 西垣知佳子, 長谷川修治, 内山将夫 (2008) 「『ゆとり教育』時代の高校教科書語彙を考える—1980年代と2000年代の高校英語教科書語彙の比較分析からの考察—」『英語コーパス研究』15, 57-79.

(にしがき ちかこ・千葉大学准教授)